

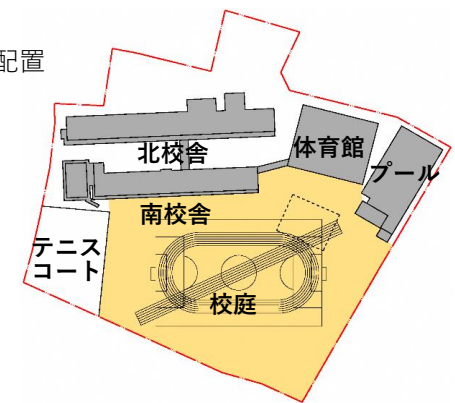
武蔵野市立第五中学校配置計画案

配置計画案検討の視点

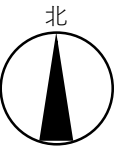
- 1 仮設校舎の有無
仮設校舎は、費用と工期、引越しの手間や工事中の生徒の教育環境への影響があります。
- 2 校庭の環境
配置案により、校庭の広さや校庭への日影の影響が変わります。
- 3 周辺環境への影響 → 近隣住民アンケートを実施
建物の配置が既存から変わることにより、周辺への日影や砂埃、騒音、圧迫感などの影響が新たに発生する可能性があります。
- 4 工事期間
配置案によって、工事の手順や工事期間の長さが変わります。

想定建物高さ
 新校舎 地上3階(12m) / 部分的に2階以下となることもあります。
 新体育館 地上1階(12m)

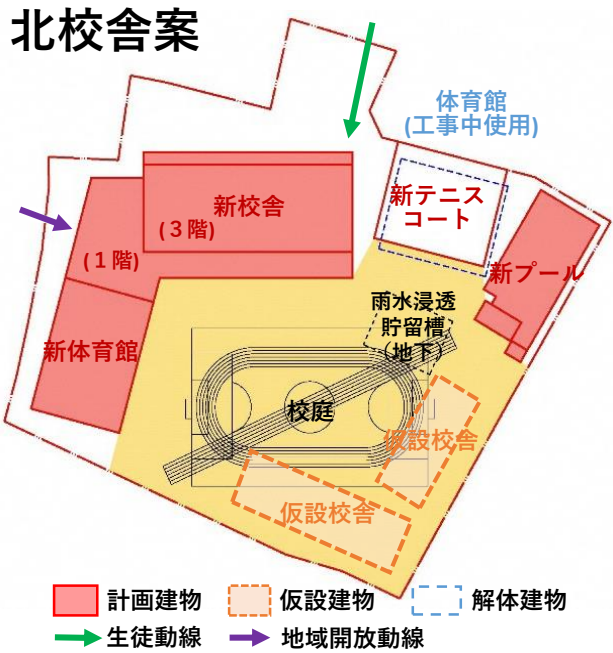
既存配置



令和2年8月24日
 武蔵野市立第五中学校
 改築懇談会(第3回)
 資料5



北校舎案

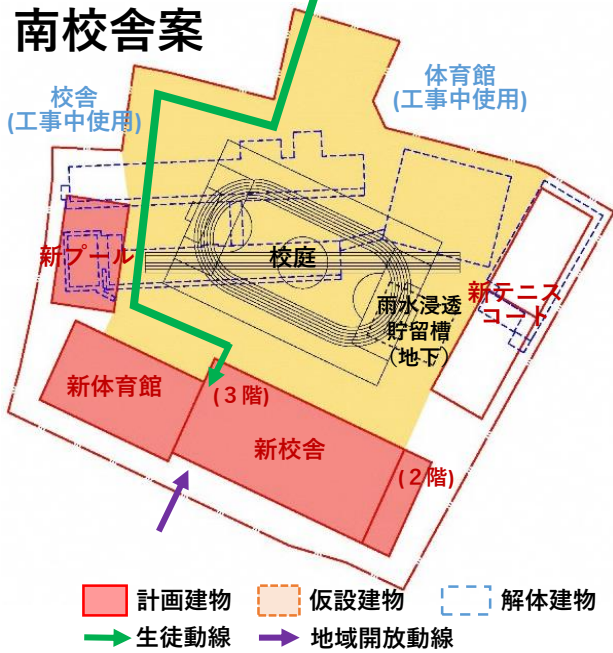


■ プランの特徴

既存の配置に最も近いプランであるが、日影規制により、建物北側が階段状になる。既存の正門からアプローチ。仮設校舎が必要なため、工期が長くなる。

仮設校舎	あり
アプローチ	既存と同じ
ゾーニング	プールと体育館が離れる
校庭	既存と同等
教室採光	北・南
雨水浸透貯留槽	既存を利用できる
周辺への影響	現在とほぼ同じ

南校舎案

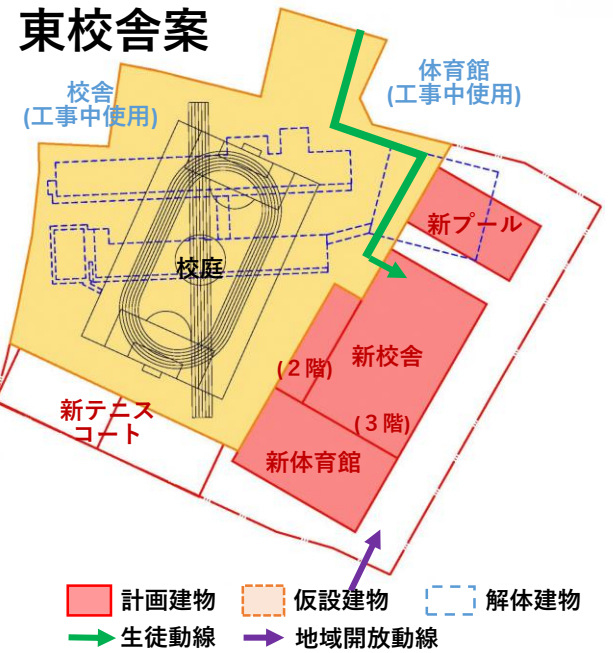


■ プランの特徴

既存の校舎・体育館を利用しながら、南側に新校舎・新体育館を配置するプラン。校庭に多少校舎の影がおちるが、最も校庭が広く、影の影響のない範囲でトラックなどを整備可能。生徒と開放用のアプローチを北と南に分けられるが、既存の正門から校舎までの距離が長くなるため、設計時にアプローチを工夫する。北側への騒音、砂埃対策として、緩衝緑地の整備を検討。

仮設校舎	なし
アプローチ	既存正門からやや遠くなる
ゾーニング	プールと体育館が一体
校庭	既存よりも広くなる、多少の影
教室採光	北・南
雨水浸透貯留槽	既存を利用できる
周辺への影響	東側に多少の日影・圧迫感、北側へ騒音・砂埃⇒緩衝緑地

東校舎案

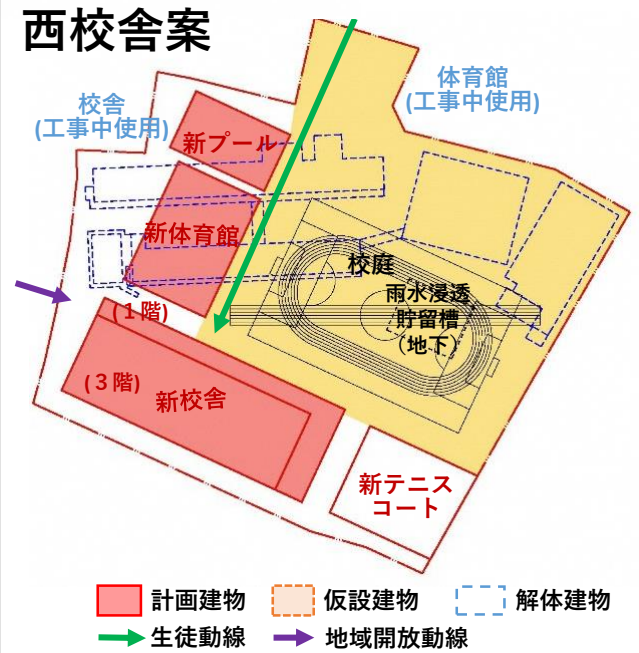


■ プランの特徴

既存の校舎・体育館を利用しながら、東側に新校舎・新体育館を配置するプラン。午前中、校庭に校舎の影がおちる。生徒と開放用のアプローチを分けられる。東側へ日影、圧迫感などの影響が懸念される。北側への騒音、砂埃対策として、緩衝緑地の整備を検討。

仮設校舎	なし
アプローチ	既存とほぼ同じ
ゾーニング	プールと体育館が離れる
校庭	既存よりも広くなる、午前中影
教室採光	東・西
雨水浸透貯留槽	再整備が必要
周辺への影響	東側に日影・圧迫感・視線、北側へ騒音・砂埃⇒緩衝緑地

西校舎案



■ プランの特徴

既存の校舎・体育館を利用しながら、西側に新校舎を配置するプラン。夕方、校庭に校舎の影がおちる。生徒と開放用のアプローチを分けられるが、既存の正門から校舎が遠くなるため、設計時に工夫する。北側への騒音、砂埃対策として、緩衝緑地の整備を検討。既存校舎解体後に新体育館を建設するため、工事完了が遅くなる。

仮設校舎	なし
アプローチ	既存正門からやや遠くなる
ゾーニング	プール、体育館が一体
校庭	既存よりも広くなる、夕方多少の影
教室採光	北・南
雨水浸透貯留槽	既存を利用できる
周辺への影響	西側に多少の日影、北側へ騒音・砂埃⇒緩衝緑地

注) 新校舎と新体育館のおおむねの配置を検討する資料です。令和3年度に着手する基本設計の中で、新プールや新テニスコートなどの付属施設の配置や新校舎・新体育館の形状の変更、新校舎・新体育館の位置の調整が発生する場合があります。